

Even Gran (1998)

Green Domination In Norwegian Letsystems: Catalyst For Growth Or Constraint On Development? : <http://www.geog.le.ac.uk/ijccr/>

翻訳 泉留維 (1999年9月)

Introduction

Background

LETS システムは、多くの場合「greens」(例：環境保護主義者、利他的・合理的で、イデオロギーに従事する傾向を持った人々のグループ)によって、運営されている。しかし広く経済をエンパワメントし、コミュニティの再構築を行うためには、LETS は、「greens」に特化することをやめ、幅広い人々を巻き込まなくてはならない。(自己の利益や、経済に関心がある人々などの参加を妨げている。)

現在 LETS は、「特別な興味」を持った人々によって確立されたプロジェクトのように見られる危険をはらんでおり、広く成功するためには、参加機会の拡大と、幅広い市民の参加が必要である。このペーパーでは、96年4月にノルウェーの10のLETS システムのうち、最大規模の4つを調査した結果をふまえて、どのような社会グループがLETS システムを運営しているかを明らかにする。(計260名にアンケートを配布し、165名から返答があった。 <63.5% >)

特別なグループに支配されているかどうかを調べるために、以下のような特徴を明らかにしようとした。 <性別、年齢、結婚の有無、子供の有無、雇用状態、社会保障の受領者か、収入に満足しているか、ボランティアに参加しているか、生活水準、政治的選好 > また「なぜLETSに参加したのか？」などの質問もした。

Other Studies

Langseth (93年) の調査では、WaimateLETS (ニュージーランド) のメンバーの45%は、イデオロギーに共感して参加したと述べていて、15%しか経済的理由で参加した人はいなかった。(ストックホルムのLETSの調査でも同じような傾向がでている。) Colin Williams によるイギリス(1996)・オーストラリア(1997)・ニュージーランド(1996)の調査でも同様に「greens」という理由を挙げるメンバーが多かった。(ただし「低所得だから」という理由を挙げた人も30%前後いる。)

しかしながら「greens」という理由を挙げた人も、まったく経済的便益を考慮していなかったわけではない。TothesLETSの調査では、35.5%が経済的理由で参加していて、イデオロギーを理由に挙げた人は、30.6%だった。またマンチェスターでは、LETSメンバーの81.5%が、経済的理由で参加したと述べている。(低所得の人々や失業者が多く、彼らは、「LETSは、生活水準を改善するのを助けてくれる」と述べている。)オランダのLETSの調査では、豊かな人々が住んでいる地域で、高等教育を受けた人々の間で成功しているのが分かった。(一般的に貧しい人々は、他の人々よりも現金を得ようとするため、LETSシステムに興味を示しにくい、と言う人もいる。) Gill Seyfang は、「LETSは、一般に主

流の経済における手法というよりも、むしろオルタナティブなものの一部として存在し、認識されている。」と述べている。実際イデオロギーを注視する「greens」によって占められている LETS は、違ったタイプの人々、特に若者・失業者・年金受領者、を引き入れることが難しくなっている。

Michael Linton は、初期の LETS は「greens」によって大部分を占められるだろうが、このゆがみは、システムが成長するにつれ構造的に是正される、と主張している。また Williams は、新規の LETS システムは、以前に比べてより幅広い人々をメンバーに加えている傾向がある、と述べている。(イギリスの LETS システムの調査において、91 年以前に設立された LETS は、そのメンバーの 93% が「greens」であったが、95 年に設立された LETS では、51% まで減少している。) LETS は、より幅広い層に浸透させていく必要があり、失業中である LETS メンバーの比率が、全人口における失業率よりも、常に高いことに注目することが重要である。(96 年の時点で、イギリスの LETS において失業中のメンバーは 27.5%、ニュージーランドでは 38.7% であり、オーストラリアでは 31.9% の LETS メンバーが低所得層の分類に入る。特にマンチェスターの LETS では、失業者が 43% も占めている。)

Results

ノルウェーの LETS メンバーの特質を明らかにするため、まず統計学上の特徴を示す。(性別、年齢、結婚の有無、子供の数、教育水準)次に特別な社会グループが、メンバーの多数を占めているかどうかを、より直接的に表す特徴を示す。(雇用状態、社会保障の状況、ボランティアをしているか、現在の所得水準に満足しているか、生活水準、政党の選好)そして最後に、いくつかの状況判断の強さに関する反応を示す。(なぜ LETS に参加したのかについてなど。) <注:「n」は標本数>

1. Gender (n=165)	
Women	70.9%
Men	29.1%

2. Age (n=164)	
21-30 years (born after 1965)	21.3%
31-40 years (born 1955-64)	44.5%
41-50 years (born 1945-54)	18.7%
51-60 years (born 1935-44)	9.0%
61-70 years (born 1925-34)	6.0%

3. Marital status (n=163)		
	LETS members	Nationwide, age 20-79 (SSB 1995:table 64)
Married or co-habitant	64.4%	72.4%
Single	35.6%	27.6%

4. Do you have children? (n=165)		
	LETS members	Nationwide, 16+ years (SSB 1995: table 33+35)
Yes, under 18 years	64.2%	29.2%
Yes, over 18 years	14.5%	
No	21.2%	

5. Education (n=149)		
	LETS members	Nationwide, 16+ years (SSB 1995:table 126)
Compulsory education only	1.3%	38.6%
High-school education	16.8%	43.4%
University education, lower degree	36.9%	18.0%
University education, higher degree	45.0%	

6. Employment (n=161)		
	LETS members	Nationwide:16-74 years (SSB 1995:table 175)
Employed (full or part-time)	65.8%	64.9%
Unemployed	9.9%	3.7%
Students	18.0%	31.4%
Pensioners/disabled	6.2%	

7. Are you employed on a regular basis? (n=105)	
Yes	75.2%
No	24.8%

8. Do you receive any kinds of social [state welfare] benefits? (n = 161)	
Yes	27.3%
No	72.7%

9. Is it a strain to get by on your current income? (n=163)	
Yes	16.6%
Partly	36.8%
No	46.6%

10. Are you, or have you ever been, actively engaged in any form of voluntary organisation apart from paid work? (n=165)	
Yes	89.7%
No	10.3 %

11. Have you ever been part of these organisation's leadership, and, among other things, planned activities for others to join? (n=157)	
Yes	78.3%
No	21.7%

12. In what kinds of organizations have you been engaged with, actively or passively? (multiple responses given)	
Campaign/pressure group	42.4%
Representative body	18.5%
Sport	14.9%
Political party	13.2%
Music/band	11.1%

13. What type of living accomodation do you have? (n=163)	
Single house	46.6%
Houses put together	23.3%
Apartment building	7.4%
City-street building	3.1%
House for two families	6.7%
House for four families	6.7%
Other	6.7%

14. What political party would you vote for in the event of an election for the National Assembly tomorrow? (n=142)			
		LETS members	1993 Election (SSB1995:table 3)
Fremskrittspartiet (Frp)	(right-wing populists)	1.4%	6.3%
Høyre (H)	(conservatives)	2.1%	17.0%
Kristelig folkeparti (KrF)	(christian-democrats)	1.4%	7.9%
Venstre (V)	(liberals with green profile)	15.5%	3.6%
Senterpartiet (Sp)	(farmers)	5.6%	16.7%
Arbeiderpartiet (A)	(social-democrats)	11.3%	36.9%
Sosialistisk Venstreparti (SV)	(socialist red-greens)	35.2%	7.9%
De Grønne	(environmentalists "the greens")	12.7%	0.1%
Rødt Valgallianse (RV)	(marxist-leninists)	13.4%	1.1%
Others		1.4%	2.4%

Attitude Analysis

次の調査は、1（同意しない、重要ではない）から10（同意する、重要である）の範囲で返答を求めた12の質問をからなるものである。12の質問は、2つのセクションにわかれ、1つは「なぜ LETS に参加したのか?」、もう1つは「LETS に対する姿勢 (general attitude)」である。

Motives for joining

2つのメインカテゴリに参加動機を分けて考えてみた。

短期イデオロギー的（利他的）な動機

短期自己中心的な動機

（長期的な視点は意味をなさないため（ ）との区別が付きにくくなる）、短期のみ。）

の短期利他的な動機を調査するため、次の質問の返答（1～10の意志表示）を平均化した。

(1)私は、LETS のアイデアが好きだ。

(2)LETS は、私がより環境に優しい世界に寄与するのを、助けてくれる。

次に の短期自己中心的な動機を調査するため、同様のことを行った。

- (3)LETS は、私がお金を貯めるのを助けてくれる。
- (4)LETS は、隣人とより活発に交流することを促進してくれる。
- (5)LETS は、提供できる多くの財を持っていて、それを得るためのアクセスも易しい。
- (6)LETS は、私を雇ってくれ、仕事を与えてくれる。

結果は、短期利他的な動機のほうが、より強い動機になっているというものであった。この動機は平均して、**8.1** を示していて、一方自己中心的な動機は平均 **4.9** を示していた。これによりメンバーは、主に利他的（イデオロギー的）動機で LETS に参加していたことが分かった。

General attitude

3つのカテゴリーに分けて調査した。

1 , 経済をエンパワメントする手段として、積極的に LETS を強調する。

- (1)LETS は、貯蓄をするのを助ける。
- (2)LETS は、提供できる多くの財を持っていて、それを得るためのアクセスも易しい。
- (3)LETS は、仕事を与えてくれる。
- (4)LETS は、全世界へ普及することができるより公正な金融システムの先行モデルである。
- (5)LETS は、人々がより多くの財を供給することを助ける。
- (6)LETS は、人々が仕事を得ることを助ける。

これらの質問の返答の平均は、**5.3** であった。

2 , コミュニティーを再構築するための手段として LETS をとらえる。

- (7)LETS は、隣人とより活発に交流することを促進してくれる。
- (8)LETS は、コミュニティ内でお互いに知り合いになるのを助ける。

これらの質問の返答の平均は、**6.4** であった。

3 , より環境に易しい持続可能な世界を作り出す手段として、LETS をとらえる。

- (9)LETS は、私がより環境に優しい世界に寄与すること、を助ける。
- (10)LETS の普及は、持続可能な世界に寄与する。

これらの質問の返答の平均は、**7.9** であった。

LETS に参加する第1の理由は、環境への関心からであり、続いてコミュニティを構築するためのシステムのパワーへの信頼、最後に経済をエンパワメントするための能力へ

の期待、であった。これらの結果から、短期利他的（イデオロギー的）な動機が強く働いていることがわかる。（現時点でノルウェーでは、環境保護主義や生態系への関心などが、LETS に参加している人々の中心的な動機になっていて、LETS 内での支配的な姿勢でもある。）

The Typical Norwegian LETS Member

典型的なノルウェーの LETS メンバーは、21～40 歳の女性であり、教育水準も高く、フルタイムで働いている人であることが分かった。彼女らは、国の社会保障を受けておらず、生活水準にとても満足していて、自らのイデオロギーに合ったボランティアに参加している人が多い。政治的には「green/radical/left-wing」である。彼女らは、利他的（イデオロギー的）理由で、LETS に参加していて、特に環境面を強調する傾向がある。

Conclusion

4 つのノルウェーの LETS に参加しているメンバーは、若干一般的な人々とは違っている。システムをインフォーマルに広める中で（例：口伝え）、無意識のうちにイデオロギーを強調していて、それに共感できる人しかシステムに引き込めていない。またすべての LETS は、インフォーマルなマーケティングに頼っていて、計画的なマーケティングを行っていなかった。LETS は、イデオロギー的動機を持ったメンバーによって占められているとき、イデオロギーに固執するあまり、メンバーが固定するなどの悪循環に陥ってしまう危険がある。（しかしながら LETS が成長するにつれ、「greens」の支配は薄れていくだろうし、最近設立されている LETS を見ると、より一般的な人々が参加する傾向が見られる。）

今回の調査の結果、ノルウェーの LETS は、社会の幅広い層からの参加は、得られていないことが分かった。偏った支配を避けるためには、主に 2 つの方法があると思われる。

(1)自由放任主義的アプローチをとる。（LETS が成長するにつれ、偏りがなくなっていくだろうから。）そして普及するための活動に時間を割くべきである。イデオロギーへの傾倒や、「green」文化の発達は、初期段階において必要な触媒とみなすものである。この戦略の利点は、「greens」が LETS に参加することを促し、システムの構築を行いやすいことであり、マイナス点は、LETS が「ニッチ」なプロジェクトになるリスクがあることである。

(2)もう 1 つの戦略は、最初からコミュニティの構成に即して、計画的にメンバーを増やしていくものである。（例：システムの経済的便益を強調して、イデオロギー面を強調しない。）このアプローチの利点は、システムをオープンにし、常識的で、普通のプロジェクトとして説明することができるため、最初から様々な人々が参加するチャンスが増大することである。マイナス点は、まだ存在していないシステムの経済的便益を説明するのは難しく、そしてシステムを起動させることが難しいということである。

上記の戦略が必ずしも、最も効果的であるとは言えないかもしれない。上記の戦略は、大部分が、個々人・社会的関係・需要と供給の状態・成長戦略・LETS の印象などによって左右してくるからである。それにもかかわらず LETS システムでの主な目的が、特定のメンバーの獲得でなければならないことは疑いない。そしてこの目的は、実際成長の触媒として「greens」の支配に依存しているためかもしれない。しかし特定のイデオロギーに固執することは、LETS を限定的なプロジェクトに陥れることになるかもしれないことを覚えておく必要がある。